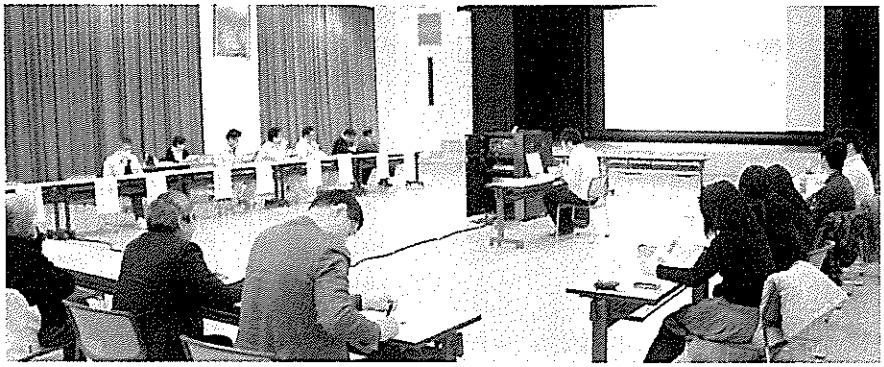
平成25年3月27日付け　東信ジャーナル

花豆納豆「町内企業と開発」へ

東京農業大学が長和町をフィールドに行う実習を同町などと連携して地域振興に役立てる「山村再生プロジェクト」はこのほど、平成24年度の最終回の実習の報告会を和田コミュニティーセンターで行い、今期の成果などを地域に報告、新しい特産品開発の芽が出てきた。

長和で東京農大生「山村再生プロジェクト」



山村再生プロジェクト学生委員会と東京農業大学教育支援協議会の意見交換会

東京農大は、地域に学びを役立ててもらうため実習参加者が山村再生プロジェクト学生委員会を設けている。町側は、学生の提案活用や実施支援の組織、東京農業大学教育支援協議会（会長・清水賢一町農業委員会会長）を設けている。同協議会は町商工会や町内企業、農事組合法人、町グリーンツーリズム協議会、林業後継者グループなどで構成。文科省補助事業で同大学が長和で実習を始め、現在の連携の基礎が形作られた平成20年度から毎年度末に意見交換をしている。

東京農大の同プロジェクト学生委員会の8人が協議会に成果報告。その中で、昨年度からの研究「花豆納豆の商品化」を、地域農家による栽培から製造、販売まで特産化する枠組みの考えを披露。羽田義久町商工会長は「新年度に町内企業との共同開発につなげたい。研究の資金面、特産化の枠組み作りとしてより効率的なはず」と期待を表した。

また学生は、ニジマス唐揚げ調理やスノーハイクのツアーガイドを初めて行った。町側はこれらの実習からも、新たな特産品開発や観光集客プランのアイデアが生まれることを期待しているとした。

長和町（ながわまち）

依田川・大門川流域と支流によって形成された平地や扇状地にある長和町。平成の大合併により、平成17年、旧長和町と和田村が合併して誕生した。旧中山道の宿場町として、また旧石器時代からの黒耀石の産地と知られる。

183.95㎢　2700世帯
6867人　人も元気・まちも元気・黒曜石のふるさと ながわまち
37.33人/㎢
問長和町役場　☎0268-68-3111（代）　2013年3月1日現在

高すぎる！秘密特訓用の土俵

昼なお暗い杉木立に、真っ赤に映える明神鳥居。素木造りの本殿には龍や獅子の見事な彫刻。しかし、それらを差し置いて気になるのは、鳥居をくぐってすぐにそびえ立つ…土俵。大門稲荷神社にある高さ2m50cmという小山のような土俵は江戸時代、大相撲浦風部屋の隠し稽古用として造られ、勝率日本一の雷電為右衛門もここで稽古したと言われる。落ちたらただでは済まなさそうなこの高さは、若手力士に度胸を付けさせるためだったらしい。町の文化財であり、毎年10月には今でも奉納相撲が行われるというが、参加される皆さんどうか気を付けて取り組みを。

星糞・ほしくそって？！……シュールな縄文ロマンのキラキラ

星の……ですか？一瞬ギョッとしてしまう星糞は、鷹山遺跡では縄文時代の黒耀石鉱山跡が発見された峠の名前でこの峠約6.6haにわたって広がる世界最古級の鉱山とも言われる場所。星糞という、美しいような、そうでないようなシュールな峠名は、人工的に割られた黒耀石の欠片がキラキラ光るさまを表したもの。地元では、その特徴を伝えるために「耀」という字を大切に使っているのだ。

長和町×東京農大 山村再生プロジェクト

Attention

長和町では東京農業大学食糧環境経済学科と連携して、山村再生プロジェクトを行っている。学生がプランナーとなって山村の問題点を探り、解決策を考える取り組みだ。1年間に延べ2000人の学生が実習に訪れ、荒れた農地を耕したり、収穫物で味噌や漬物を加工したり、また炭焼きや和紙作り、大山獅子などの伝統芸能も体験してきた。若いアイデアは意見交換会で、プロの農家や企業、町の議会にも吸収され、町づくりに役立っているという。また、学生がおもてなしする一般ツアーも行っている。